

『今日は、牛王（ごおう）の話であったな。そもそも牛王とはどのようなものであるのかわかりやすく言うと、絵札のことを言うんじゃ。牛玉と表記される場合もあるんじゃが、どちらが正しい言い方なのか、また、言い方を変えることによって何が違っているのか、明確になっていないんじゃよ。しかし、護符としての役割があるということは確かなんじゃよ。』

『富士山のご神体は、木花開耶姫命とされているでまっすん。けれども、東円寺で配っている牛王札には阿弥陀三尊が描かれているでまっすん。これは、どういうことであらう？』

『東円寺の牛王札は、富士山牛玉と言われるものなんじゃ。富士山は、古くから山岳信仰の対象とされてきた。富士の信仰が記録に現れるのは、平安時代からで、繰り返す噴火を鎮めるために浅間大神を祀ったのが始まりなんじゃ。さて、浅間大神というと神様なんじゃが、平安密教の影響を受け、富士を仏の浄土とみて仏法修行の場となっていたんじゃ。これによって、修験道の隆盛期となり、富士の本尊は大日如来とされ、浅間大神は浅間大菩薩と称されるようになったんじゃよ。富士山のご神体が木花開耶姫命となったのは、江戸時代後期なんじゃ。』

『講左衛門さんの話を聞いていると、富士山信仰の歴史は、日本宗教の歴史ということであらう？けれども、とても複雑で難しいでまっすん。わかりやすく教えてほしいでまっすん。』

『多くの学者や学芸員が様々な研究をしているんじゃが、信仰の実態を理解することは難しいようじゃ。何より難しいことは、平安時代から現在までの生活様式が違っていることで、宗教というのは人々の生活と密接な関係にあるのだから、生活が変化すると信仰対象が変化するのは当然なんじゃ。けれども、それを想像するのが難しいんじゃよ。今回、牛王札をわかりやすく説明するために、平成8年に富士吉田民族博物館（現富士山ミュージアム）で「富士山の絵札」という企画展をしたんじゃが、その時の図録を参考にしながら話をしておるんじゃよ。「ごあいさつ」に書かれているんじゃが、「絵札は富士山の信仰を凝縮したものであり、富士信仰の変遷やその時々信仰実態を知るためのものとして、絵札は絶好の資料といえる」とな。お会式で配っておるお札を見て、昔の人々の暮らしを想像しながら、また、現代に通じる信仰のあり方について考える機会となれば嬉しいのう・・・』

『今は、まだ、なんとなくだけれど、日本人にとっての富士山と信仰について、分かってきたような気がするでまっすん。けれども、東円寺の絵札の話まで聞くことができなかつたでまっすん。次回は、東円寺の牛王札の説明をしてくれるでまっすん？』

『次回は、今年最後の講左衛門通信になるんじゃな。1年は早いもんじゃ。』



クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
口癖 でまっすん..

来年は申年じゃ。富士山信仰にとって猿との縁も深いんじゃよ。次回、絵札の話が完結できるといいんじゃが・・・』

ふじのだいごこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)